

【実践報告】

地域住民と大学で認知症を学ぶ試み

～安佐北区オレンジ大学の実践からみえてきたこと～

太原 牧絵 坂井 晶子
Makie Tahara Akiko Sakai

I. はじめに

高齢化が進むわが国では、認知症高齢者も年々増加しており、厚生労働省¹⁾の発表では、認知症の人は、2025年には約700万人に増加すると推測されている。団塊の世代が75歳以上となる2025(平成37)年を見据え、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、2015年1月に「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」(新オレンジプラン)が策定されている。新オレンジプランでは、①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進、②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供、③若年性認知症施策の強化、④認知症の人の介護者への支援、⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進、⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその効果の普及の推進、⑦認知症の人やその家族の視点の重視の7つの柱があげられている。

認知症高齢者等にやさしい地域づくりをめざし2)、地域において認知症の人とその家族、地域の人、医療・介護の専門職など、認知症に色々な形

でかかわる人たちが集まって、認知症への正しい理解を深めながら、楽しいひと時を過ごすための場所として「認知症カフェ」がある。本学所在地である、広島市安佐北区には4か所の認知症カフェが開設されている(平成29年2月末現在)。

2015年10月、本学近隣のA医療法人の職員から、認知症カフェの開催実施に協力して欲しいとの依頼があった。A医療法人職員、担当圏域の地域包括支援センター職員、安佐北区担当認知症地域支援推進員、本学教員及び学生が参加し、活動の企画・運営について数回の協議を行ない、2016年2月15日に「安佐北区オレンジ大学 in 広島文教女子大学」を試行的に開催した。

本活動報告は、参加者の満足度や理解度及び今後のプログラムへ希望を把握し、地域住民と大学の教員及び学生とともに認知症を学ぶ意義と課題について考察したものである。

II. 方法

1. 安佐北区オレンジ大学開催日

(1) 実施日:

2017年2月15日 11:00～14:00

(2) 参加者: 38名, A医療法人が募った一般

参加者 15 名, その他の参加者 18 名 (福祉医療専門職 13 名, 学生 7 名, 大学教員 3 名)

(3) 場所: 広島文教女子大学 実習食堂

(4) データ収集と分析の方法: 参加者にアンケート調査を実施し, 単純集計を行った。

(5) 倫理的配慮: 参加者およびスタッフに, 目的・内容・倫理的配慮・報告書の作成や公表についてアンケート用紙に記載し, 了承をいただいた方にアンケートにご協力いただいた。また, アンケートは無記名とし, 個人が特定されないよう配慮した。

(6) 当日のスケジュール

- 10:00 スタッフ会場集合
- 11:00 安佐北区オレンジ大学開講
- 11:10 手洗いの方法レクチャー
- 11:20 調理実習スタート (いなり寿司 豚汁 うどん みたらし団子)
- 12:20 昼食
- 12:50 片付け
- 13:10 ミニセミナー① 認知症予防に良いといわれる食材の説明
- 13:20 ミニセミナー② 実行機能障害の講義
- 13:35 座談会 (みたらし団子 お茶)
- 13:55 あいさつ
- 14:00 終了
- 14:30 スタッフ解散

2. オレンジ大学反省会

(1) 実施日:

2017年3月3日 13:00~14:00

(2) 参加者: A 医療法人職員 3 名, 地域包括支援センター職員 1 名, 本学教員 2 名

(3) 場所: 広島文教女子大学 福祉演習室

III. 結果

参加者 38 名, 回答は 31 名回収率 78% であり, このうち欠損値の無い 30 名を分析した。

「1. 参加者の概要」は表 1 の通りである。性別は, 男性 3 名 (10%), 女性 27 名 (90%) であった。年齢は, 20 代 10 名 (33.3%), 30 代 1 名 (3.3%), 40 代 2 名 (6.6%), 50 代 1 名 (3.3%), 60 代 4 名 (13.3%), 70 代 7 名 (23.3%), 80 代以上 5 名 (16.7%) であった。

参加者の立場 (複数回答) は, 認知症若しくは認知症かもしれないと不安に思われている方 3 名 (10.0%), ご家族や知人に認知症の方がおられる方 7 名 (23.3%), 認知症に関心がある方 13 名 (47.7%), 医療介護従事者 8 名 (26.7%), その他 8 名 (26.7%), 無記名が 3 名 (10%) であった。その他の内訳は, 学生 7 名 教員 2 名 地域のいきいきサロンで接する中にも認知症の方がいる 1 名であった。

表1 属性について n=30(100%)

| 基本 | カテゴリ名 | 度数 | 割合(%) |
|----|-----------------------------|----|-------|
| 性別 | 女性 | 27 | 90.0 |
| | 男性 | 3 | 10.0 |
| 年代 | 20代 | 10 | 33.3 |
| | 30代 | 1 | 3.3 |
| | 40代 | 2 | 6.6 |
| | 50代 | 1 | 3.3 |
| | 60代 | 4 | 13.3 |
| | 70代 | 7 | 23.3 |
| | 80代以上 | 5 | 16.7 |
| 立場 | 認知症もしくは認知症かもしれないと不安に思われている方 | 3 | 10.0 |
| | ご家族や知人に認知症の方がおられる方 | 7 | 23.3 |
| | 認知症に関心がある方 | 13 | 43.3 |
| | 医療介護従事者 | 8 | 26.7 |
| | その他 | 8 | 26.7 |
| | 無回答 | 3 | 10.0 |

「2. 参加の満足度とミニセミナーの理解度について」の結果は表 2 の通りである。参加の満足は満足 26 名 (87.6%), やや満足 4 名 (13.3%) であった。ミニセミナーの理解度については,

理解できた 23 名 (76.6) %, やや理解できた 7 名 (23.3%) であった。

表2 参加の満足度とミニセミナーの理解度についてn=30(100%)

| 基本 | カテゴリー名 | 度数 | 割合(%) |
|------------|------------|----|-------|
| 参加の満足度 | 満足 | 26 | 86.7 |
| | やや満足 | 4 | 13.3 |
| | やや不満 | 0 | 0 |
| | 不満 | 0 | 0 |
| ミニセミナーの理解度 | 理解できた | 23 | 76.7 |
| | やや理解できた | 7 | 23.3 |
| | やや理解できなかった | 0 | 0 |
| | 理解できなかった | 0 | 0 |

「3. 本日のプログラムについて、感想や意見について」には、18 名の記載があり、その内容は以下の通りであった。

- ・今日はありがとうございました。また今日のようなことがありましたらよろしく願います。
- ・皆で一緒に作り不安やその時が来た時の相談ができる色々な場所があることを心強く思いました。一緒にいただいたこと楽しかったです。
- ・料理を作るだけでなく、認知症の知識を得ることができてよかった。
- ・皆でお話をしながら料理をしたりご飯を食べたりするのはとても楽しかった。
- ・今日はありがとうございました。学生さんと料理ができて楽しかったです。若いパワーをありがとう。
- ・みんなで楽しくできてよかったです。
- ・大変に楽しかったです。
- ・色々なメニューを食べられてとてもおいしかったです。皆さんが協力しながら作業され、食事の際に「おいしい」や「家でやってみたい」と笑顔で話されていたので、一緒に参加できてとても良かったです。
- ・皆さん楽しく参加されていました 私自身も楽しかったです。

・普段話を聞くことができない方から話を聞くことができてよかった。料理だけでなく他のことでこのような会を行えば、料理をしない方や料理ができない方でも参加できると思う。認知症でもレベルがあるので、どのレベルの方が対象なのかをはっきりさせれば良いと思う。

- ・大学を巻き込んだ地域としての取り組みとなっており、とても心強いです。
- ・理解しやすい仕組みで大変良かったです。高度な話はなかなか理解しにくいものですが、このような対応でやっていただいたら嬉しいです。皆様のご苦勞に感謝します。
- ・普段あまり料理をしないので、認知症予防に効果のある野菜を理解しながら、料理自体も楽しくできたので良かったです。参加された方も色々意見を言いながらしていたので良かったのかなと思いました。話を聞くとご家族が認知症の方が多かったので、当事者の方が参加できる機会もあればいいかなと思いました。
- ・初めてお会いした方と和気あいあい料理をすることの楽しさを久しぶりに体験できて大変良かったです。気分転換にもなった。
- ・参加型のプログラムで楽しかったです。学生さんとの交流も素敵だと思いました。
- ・終日、スタッフの方々の優しさがキャッチでき、有意義な時間を過ごすことができました。異年齢の方々とひとつの作業をし、親交を深めるって改めて新鮮な気持ちを味わうことができると実感しました。参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・最初は皆、初対面ということもあり、固く緊張していたが、調理開始し会話が增え、楽しみながら学ぶことができたと思います。調理=認知

症予防と関連があり、大変分かりやすかったのではないのでしょうか。また、一般参加者が主体となり、楽しいプログラムだったと思います。次回も参加したいと思います。

・皆でお話をしながら、料理をしたりご飯を食べたりするのはとても楽しかった。

「4. 今後参加したい企画について（複数回答可）」の結果は表3の通りである。体操 11名（36.7%）、脳トレ9名（30.0%）、料理教室15名（50.0%）、作品作り7名（23.3%）、認知症についての勉強会17名（56.7%）、認知症当事者の話を聞く企画9名（30.0%）、認知症介護者の話を聞く企画14名（46.7%）、認知症当事者・家族で語る会や交流会10名（33.3%）、専門職との座談会6名（20%）その他5名（16.7%）であった。

表3 今後参加したい企画について n=30(100%)

| 内容 | 度数 | 割合(%) |
|-------------------|----|-------|
| 体操 | 11 | 36.7 |
| 脳トレ | 9 | 30.0 |
| 料理教室 | 15 | 50.0 |
| 作品作り | 7 | 23.3 |
| 認知症についての勉強会 | 17 | 56.7 |
| 認知症当事者の話を聞く企画 | 9 | 30.0 |
| 認知症介護者の話を聞く企画 | 14 | 46.7 |
| 認知症当事者・家族で語る会や交流会 | 10 | 33.3 |
| 専門職との座談会 | 6 | 20.0 |
| その他 | 5 | 16.7 |

その他の内容は、

・ご夫婦（当事者+介護者）で参加しやすいものかいいと思います。

・季節ごとにフィットしたイベントも良いのでは。

・今後の介護保険の改正で要支援の人たちが地域でボランティアでどのように支援していけばよいか。どうなっていくのか。自分が体力、気力低下にいま不安な年齢になっているので教

えて欲しい。

・認知症については大変幅広く、深いものだと思いますので、ときほぐすような企画であれば喜びます。

・大きな声でコーラスなどしたい。であった。

「5. 一般参加者とその他の参加者のアンケート結果の差異について」の結果は、表4の通りであった。

年代から、一般参加者15名とその他の参加者15名と分けて結果を比較した。

(1) 一般参加者とその他の参加者の参加の満足度とミニセミナーの理解度について

企画に満足と答えた割合は、一般参加者もその他の参加者も各々13名（86.6%）、やや満足も各々2名（13.3%）であった。

ミニセミナーの理解度は、理解できたが一般参加者10名（66.7%）、その他の参加者は13名（86.6%）、やや理解できたが、一般参加者5名（33.3%）、その他の参加者は2名（13.3%）であった。

表4 一般参加者とその他の参加者の参加の満足度とミニセミナーの理解度について(n=15(100%))

| 基本 | カテゴリー名 | 一般参加者度数 | 一般参加者割合(%) | その他の参加者度数 | その他の参加者割合(%) |
|------------|------------|---------|------------|-----------|--------------|
| 参加の満足度 | 満足 | 13 | 86.7 | 13 | 86.7 |
| | やや満足 | 2 | 13.3 | 2 | 13.3 |
| | やや不満 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 不満 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ミニセミナーの理解度 | 理解できた | 10 | 66.7 | 13 | 86.7 |
| | やや理解できた | 5 | 33.3 | 2 | 13.3 |
| | やや理解できなかった | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 理解できなかった | 0 | 0 | 0 | 0 |

(2) 一般参加者とその他の参加者の今後の参加したい研修企画について（表5）

今後参加したい企画については、一般参加者は、認知症についての勉強会希望が一番多く12名（80.0%）、その他の参加者は8名（53.3%）であった。次いで、一般参加者は料理教室希望7

名 (46.6%)、その他の参加者は5名 (33.3%)であった。体操希望は一般参加者6名 (40.0%)、その他の参加者は5名 (33.3%)であった。脳トレ希望は一般参加者4名 (26.7%)、その他の参加者は5名 (33.3%)であった。作品作り希望は一般参加者4名 (26.7%)、その他の参加者は3名 (20.0%)であった。認知症当事者の話を聞く企画希望は一般参加者4名 (26.7%)、その他の参加者は5名 (33.3%)であった。認知症介護者の話を聞く企画希望は一般参加者6名 (40.0%)、その他の参加者は9名 (60.0%)であった。認知症当事者・家族で語る会や交流会は一般参加者3名 (20.0%)、その他の参加者は7名 (46.7%)であった。専門職との座談会希望は一般参加者5名 (33.3%)、その他の参加者は1名 (6.7%)であった。その他の希望は一般参加者3名 (10.0%)、その他の参加者は5名 (13.3%)であった。

らよいか工程や必要物品が分からなかった。最初にレシピをプロジェクトターなどに投影し、紹介すると参加者がイメージしやすかったのではないかと。

- ・調理が忙しいグループと暇なグループの差があった。豚汁うどんを分けて料理した方が良かったのではないかと。
- ・学生が洗い物をずっとしていた。参加者と交流がなかったのがもったいなかった。
- ・会が始まるまでに暇な時間があったので、何かプログラムを考えていけばよかった。
- ・会が始まった後に、アイスブレイクをしても良かった。参加者に自己紹介等一言話してもらってもよかったのではないかと。
- ・コーヒーマーカーが故障し、使えなかった。

- (1) -2 反省会～参加者からの気づき～
- ・もう少し専門職の人と話がしたかった(2名)。
 - ・座談会と言われてもあの場合では聞きにくい。
- (2) -1 良かった点～スタッフからの気づき
- ・皆さん、とても楽しそうだった。
 - ・夫婦で参加された方が、今まで家事をしてくれた妻に感謝の気持ちを伝え、奥さんがとても嬉しそうにされていた。

・認知症当事者の参加者で、今は料理をしていない方も手慣れた手つきでいきいきした表情で料理をされており、嬉しかった。

- ・学生参加者が当事者や家族と交流でき楽しそうであった。

- (2) -2 良かった点～参加者からの気づき～
- ・認知症の妻がいきいき作業をしている姿を見て嬉しく思った。妻のはりきっている姿がまた見たい。

- ・家で人と話しながら食事をしばらくしていな

表5 一般参加者とその他の参加者の今後参加したい企画について n=15(100%)

| 内容 | 一般参加者度数 | 一般参加者割合(%) | その他の参加者度数 | その他の参加者割合(%) |
|-------------------|---------|------------|-----------|--------------|
| 体操 | 6 | 40.0 | 5 | 33.3 |
| 脳トレ | 4 | 26.7 | 5 | 33.3 |
| 料理教室 | 7 | 46.7 | 8 | 53.3 |
| 作品作り | 4 | 26.7 | 3 | 20.0 |
| 認知症についての勉強会 | 12 | 80.0 | 5 | 33.3 |
| 認知症当事者の話を聞く企画 | 4 | 26.7 | 5 | 33.3 |
| 認知症介護者の話を聞く企画 | 6 | 40.0 | 8 | 53.3 |
| 認知症当事者・家族で語る会や交流会 | 3 | 20.0 | 7 | 46.7 |
| 専門職との座談会 | 5 | 33.3 | 1 | 6.7 |
| その他 | 3 | 10.0 | 2 | 13.3 |

6. 反省会の内容は以下の通りであった。

- (1) -1 反省点～スタッフからの気づき

・今回、電磁調理器を使用したのが、使用できる火力の問題などでスムーズに調理ができなかった。ガスの方が、火力があり良かったのではないかと。また事前に湯を沸かしておいても良かったのではないかと。事前の準備・確認が不十分であった。

- ・料理のグループに分かれ座ったが、何をした

かった。人と一緒に食事をすることはとても楽しかった。

・送迎の車内で色々な人と話ができてよかった。

反省会の参加者からは、改善点を中心にあげ、話し合われたが、後日確認できた一般参加者の声も報告していただけたが、総じて好評の様子であった。

IV. 考 察

1. 参加者の概要

参加者の9割が女性であり、一般の参加者は、全て60代以上であった。今回の一般参加者はA医療法人を利用している要支援者等の方々に参加を呼び掛けていたことにより、年齢層が高く男性の参加が少なかったと考える。その他の参加者は20代が一番多いのは、学生が7名含まれているためと考えられる。

2. 参加者の満足度・理解度

一般参加者とその他の参加者の参加の満足度は両者に差がなくとても高い満足度が得られた。これは大学という環境と調理と会食、ミニセミナーと多くの企画が満足度を高めたと考える。ミニセミナーにおいて本学栄養学科2年生による「認知症予防に良い食材の説明」とA医療法人職員による「実行機能障害の講義」について理解したと答えた参加者は、一般参加者66.6%、その他参加者81.2%、一般参加者の理解がやや低い数値となった。専門用語による内容もあったために理解に差が出たと考える。

3. 一般参加者とその他の参加者の今後の参加し

たい研修企画について

一般参加者は、認知症についての勉強会を80.0%が希望しており、次に希望が多いのが、料理教室で46.7%、体操と認知症介護者の話を聞くが各々46.7%であった。一般参加者は、認知症に対する知識欲が高く、健康維持にも関心が高いことが示唆された。

その他の参加者は、料理教室と認知症介護者の話を聞くが53.5%、次いで認知症当事者・家族で語る会や交流会が介護者の話を聞く企画が46.7%であった。今回の一般参加者は医療介護の専門職や学生及び大学教員であり、料理教室が多いのは、今回の企画で行った料理作りの満足度理解度が高かったことも要因ではないかと考える。同様に、認知症介護者の話を聞く企画や当事者家族で語る会や交流会に参加希望が多かった要因は、介護者の話を聞き、家族の負担を軽減したい。介護者の気持ちを知りたいという気持ちからではないかと考える。専門職は、相談に対応するだけでなく、アウトリーチすることを意識していることが伺える。

家族で語る会や交流会については、一般参加者からは一番人気は低く、その他の参加者からは希望が多かったのが特徴である。また、今回参加された一般参加者の多くは、家族や知人に認知症の方がおられる方や認知症に関心のある方であったため、当事者家族で語る会や交流会よりの専門職との座談会や介護者の話を聞く企画への参加希望が多い結果になったと考える事が出来る。

この結果から、一般参加者とその他の参加者の望む企画について傾向やズレがあることが分かった。企画を考える際は、認知症の人やその家

族の視点を重視することが必要であることがこのアンケート結果からも示唆された。

4. アンケート結果からみる考察～学生参加による気づき～

今回、この企画に参加した学生は計7名（人間栄養学科3名人間福祉学科4名）であった。アンケート結果より、参加学生の満足・理解度は、6名（85.7%）が満足・理解できたと回答した。自由記述の感想では、

- ・ 普段話を聞くことができない方から話を聞くことができた。
- ・ 話を聞くとご家族が認知症の方が多かったので、当事者が参加できる機会もあれば良いかと思つた。

と学生生活では得難い体験ができたこと、更に新しい企画への模索も伺われる。また、参加後には、夫婦で参加され、夫が妻に感謝の気持ちを伝える場面を見て、とても感動した等の意見もあった。

学生が地域住民や専門職に触れることで、認知症についての理解を深めるとともに、自分の将来モデルにつながる効果が今後期待できるのではないかと感じる。

学生以外の参加者から、学生が参加する意義や大学が協力することの意義について、アンケートから読み取れたものについては、感想や意見で、一般参加者の15名中1名が「学生さんと料理ができ、楽しかった。若いパワーをいただきました」と記載している。専門職参加者は、「学生さんとの交流も素敵だと思った」「大学を巻き込んだ地域としても取り組みとなっており心強い」とのコメントがあり、16名中2名の方から

学生・大学に関連する記載があった。

アンケート結果からも、学生や大学が地域住民と一緒に何かを行うことは、意義があることが示唆された。しかし、活動の意図や目的を意識し、学生や大学が関わることのメリットや効果を明確にした上で、十分に準備を行わなければその効果は発揮できないと考える。

5. 反省会より

反省会の参加者は、課題・改善点を中心に話し合ったが、今後この活動を継続し、地域の認知症高齢者が過ごしやすいまちづくりを目指し継続して活動することの重要性を確認した。

V. 今後の課題とまとめ

今回実施したオレンジ大学は、アンケート結果や反省会より、参加者にとって大変好評であったことが伺える。しかし、今後、地域住民と大学で認知症を学ぶことのできるよりよい活動を行うために、以下に課題をあげる。

(1) 学生との交流

今回のオレンジ大学では、学生と他の参加者が交流する機会が少なかった。交流する時間が少なかったこともあるが、学生からも、参加者と積極的に関わることが難しかったように感じる。また、一般参加者だけでなく、専門職と関わりことのできる機会であったが、専門職と積極的に関わることも難しかったように思われる。回数を重ね、場に慣れることで改善できることではあるが、学生自らが力をつけ、積極的に交流できる力をつけることが必要であると考えられる。そのためにも、企画する側も、学生と他参加者

が交流できるようプログラムを考えたり、必要に応じて学生に声をかけることも必要であると考える。

また、参加した学生が当事者や家族、専門職と触れ合うことで何を感じ、何を学んだかをフィードバックを行い、学生の自己覚知や学びに結びつけるような仕掛けが必要であると感ずる。今後、参加した学生にインタビュー等を行い、気づき学びを分析するとともに、より学生の学びにつなげていけるよう検討を行う必要があると考える。

(2) 参加者とプログラム内容について

反省会で、地域包括支援センター職員より「高齢者で行き場を求める人が増えている。自分の健康を守っていききたいという意識が高くなっている」との話があった。今回の参加者も地域の様々な活動に積極的に参加されているお元気な高齢者が多かった。予防的な観点も含め、対象者を絞り込まないで企画するのが良いか、または認知症当事者や家族の参加を意図的に増やすことがよいのか対象者についてより深く考える必要があると感じた。それにより参加者が求める内容も違ってくのではないかと考える。新オレンジプランにあるように、認知症の人やその家族の視点を重視し、参加対象やプログラムを検討する必要があるのではないかと考える。認知症カフェは相談やニーズをひろうことができる貴重な場である。認知症当事者・家族・専門職が手を取り一緒に作り上げていくことが理想の形ではないかと考える。

(3) 開催場所・主催事業所について

安佐北区は、広島市内で面積が一番大きい区であり、気軽に地域の方が参加できることを考え

ると様々な開催場所で実施することが望ましい。

1 事業所が開催することは全地域で開催することを考えると困難である。事業所の垣根を超え、様々な事業所が協力をし、認知症カフェを企画・運営することが地域への社会貢献につながるのではないかと考える。

VI. おわりに

今回のオレンジ大学に参加することで、大学で地域住民と認知症を学ぶ意義について改めて考えることができた。1回のみの実践であったため考察はや課題は不十分な点も多いが、学生や大学他地域の参加者にとって、多様な世代で学び合うこと、新たなネットワークを構築できたことなど実践から再確認できたことも多い。

今後は、学生へのインタビュー調査等を実施し、考察結果について検証や補足を行い、地域住民と大学・学生が双方で学び合える機会の構築について、考えていきたい。

引用文献

- 1) 厚生労働省 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン) 平成 29 年 2 月 20 日閲覧 (<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html>)
- 2) 公益財団法人認知症の人と家族の会：認知症カフェのあり方と運営に関する調査研究事業報告書. 2013 年. 平成 29 年 3 月 9 日閲覧 (http://www.alzheimer.or.jp/webfile/cafe/eb_0001.pdf#search=%27%E8%AA%8D%E7%9F%A5%E7%97%87%E3%82%AB%E3%83%95%E3%82%A7+%E5%AE%9A%E7%BE%A9%27)